

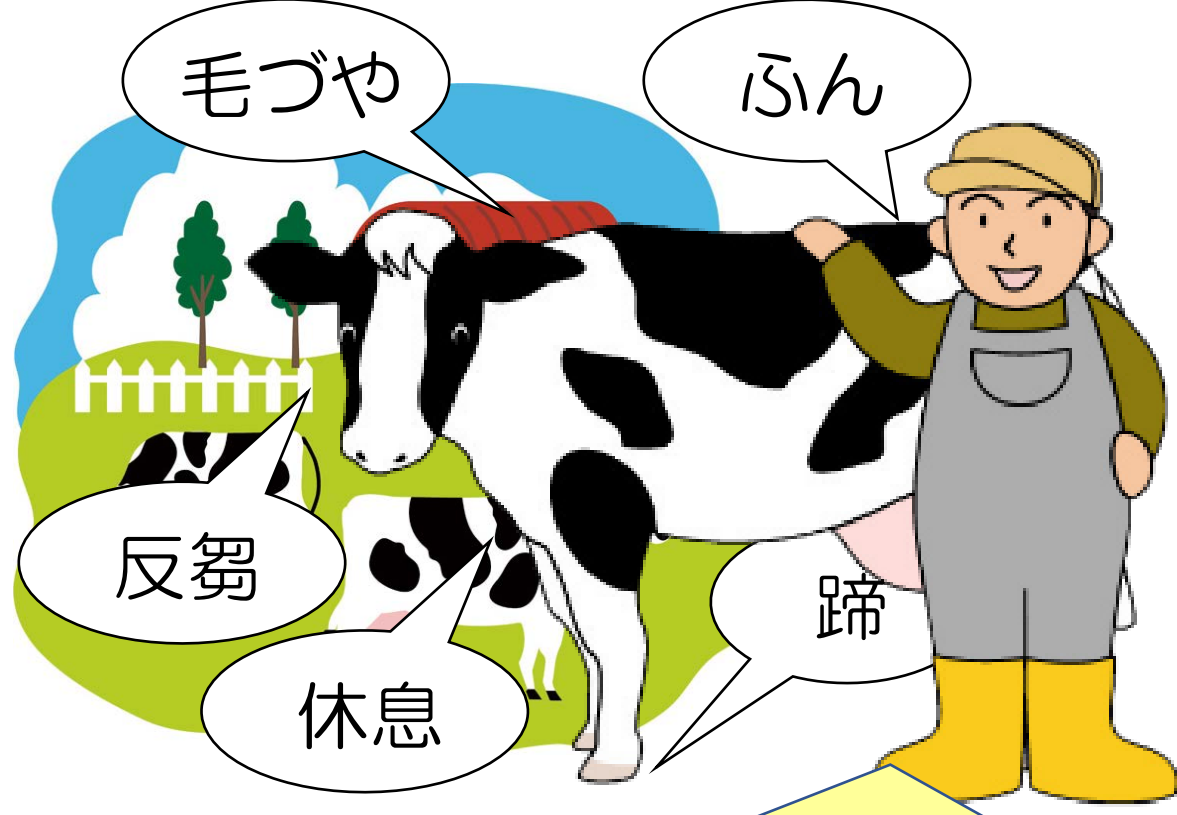
「人工知能」と「見える化」で、酪農・畜産業を高効率化

担当者名: 上士幌町役場 岩隈 亘史

連絡先: kikakuzaiseika@town.kamishihoro.hokkaido.jp

【小規模・家族経営】

＜暗黙知で作業・判断＞



この牛はボディコンいいな！
あの牛は発情だな…
今日は暑いから窓開けるかな…

BCS (ボディコンスコア)

【法人化・大規模化】

従業員の感性・判断はバラバラ…



これまでの家族経営の酪農業では、一人あたりの家畜の管理頭数は少なく、牧場主の「目」や家族の「暗黙知」の中で作業や判断を行ってきた。しかしながら、飼養頭数が増加している現在では、牧場主の目は隅々まで届かず、暗黙の了解で進めていた作業は従業員や外国人研修生には理解できず、ひとたび問題が起きれば、取り返しのつかない事態へと発展する。

5Gの“高速・大容量”の特性を活かし、大量の高精細映像・センサーデータを分析、牧場主の「目」と「経験や勘」を「見える化」

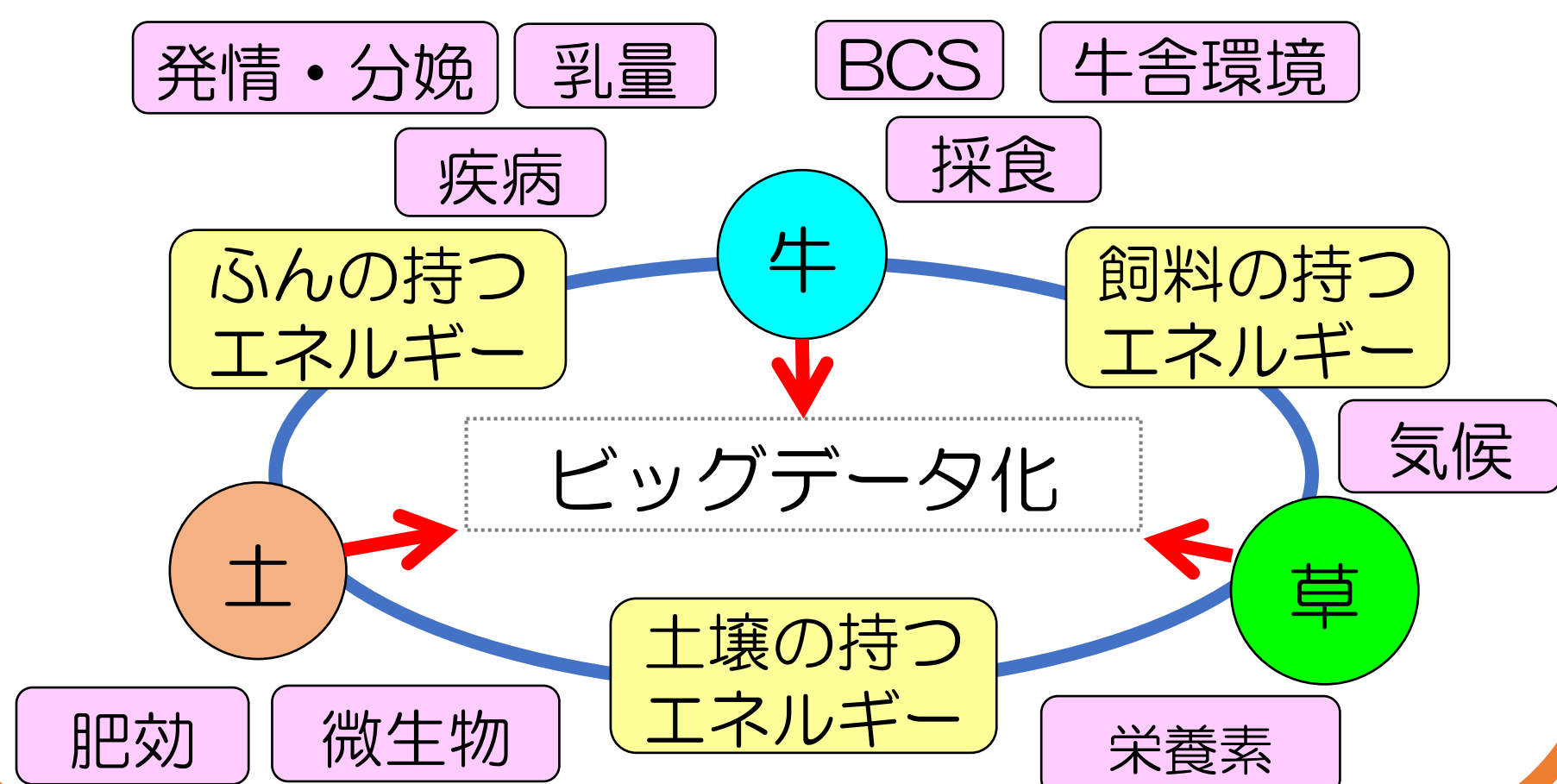
高性能カメラ・センサーを活用し、高精細な4K/8K映像による牛の行動や牛舎環境のデータなどを蓄積。これらを人工知能により分析し、「暗黙知」であった牧場主の「目」と「経験や勘」を誰でも共有、作業・判断基準を標準化します。

■農村地域でのデータ収集

酪農・畜産業では、疾病や発情・分娩管理など24時間・365日の監視作業が望ましいが不可能な現実がある。そこで、5Gの特性を生かし、画像・音声・温度など様々な情報をビッグデータ化し、人工知能を活用する。

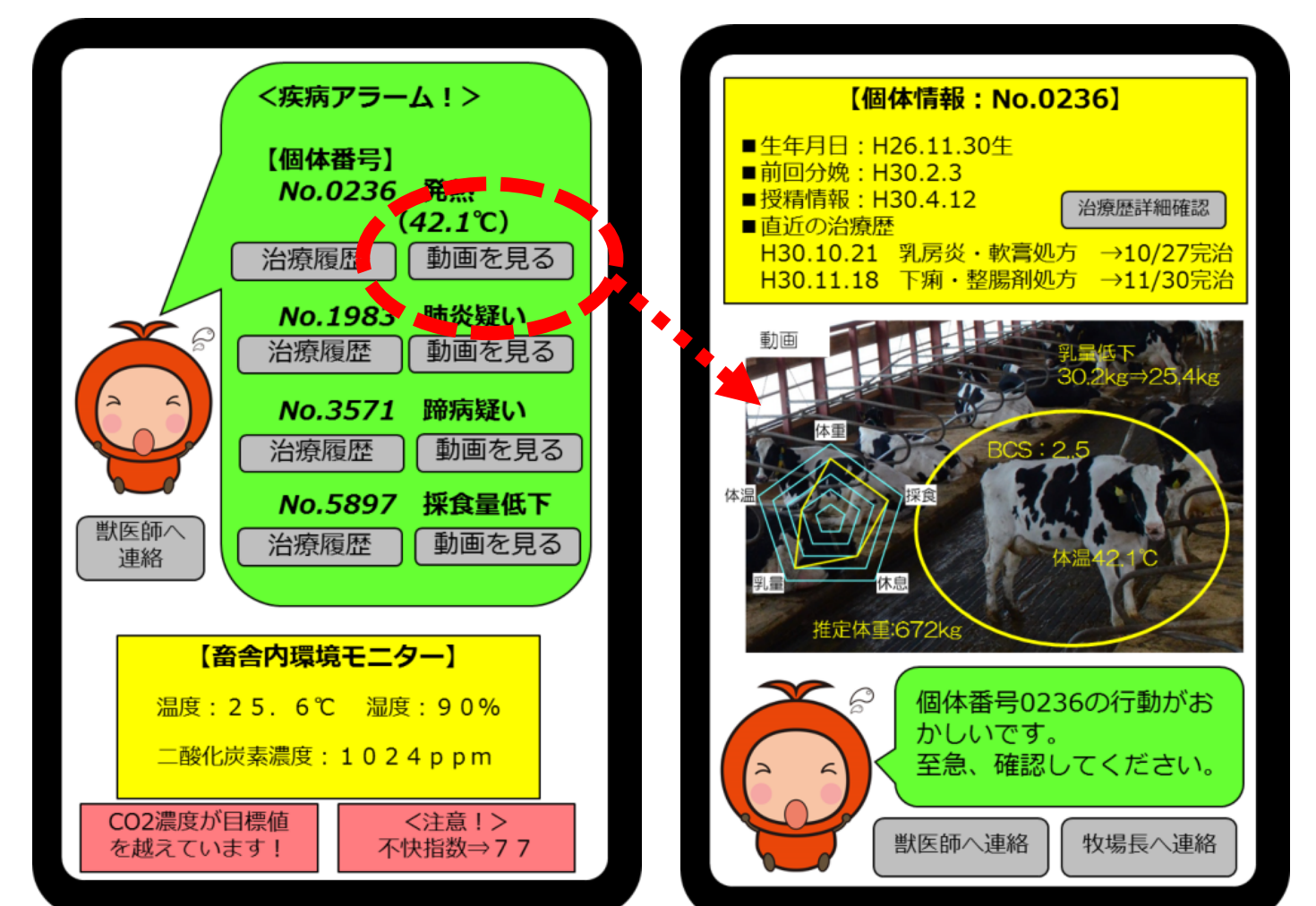
■クラウド上でのビッグデータ化

変化の要素が多数ある畜産業は、AI分析に基づき「見える化」することで経営効率は改善できる！



■どこでも情報確認！

外出していても、牧場の様子や分娩房の動画を確認できるようになり、疾病や事故も早期に発見できます。発情確認など牛の状態も「見える化」により、従業員の作業も標準化できるようになります。



【スマートフォン等でどこでも確認】